

ERIC 通信 第 12 号

2001 年 12 月 20 日 発行

国際理解教育センター

International Education Resource & Innovation Center

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

TEL 3800-9416 FAX 03-3800-9414

eric-net@try-net.or.jp http://www.try-net.or.jp/~eric-net/

2001 年は、経済や政治がグローバル化した 20 世紀が 21 世紀に積み残した挑戦とは何かさまざまな形で表出した年でした。物流や情報の流れが国際化する中、人間社会の多様性が、文化的にも、また価値観の上でも画一化、均質化することは、避けられないことでしょう。そして、また、それに伴う対立が起こったり、伝統的な価値観とユニバーサルに認知されていく価値観との間にきしみが生じることも。わたしたちは、国際理解教育を推進するものとして「対立が悪なのではなく、対立の扱い方を知らないことが危険なのである」ことを忘れず、国際社会の成熟のため、教育がなすべきことをしっかり考えていきたいと思ひます。

さて、センターの活動としては、国際社会におけるコミュニケーションのあり方を考えた「レッツ・コミュニケーション！」を 10 月に出版しました。中等教育段階の子どもたちを対象に書いたものですが、自己理解、相互理解、共通理解を柱とした国際理解教育の内容は、どの発達段階における教育でも共通です。ぜひ、ご一読ください。

さらに、昨年度から取り組んできた「日本型コンフリクト」の研究のおかげで、人権教育の内容が充実しました。始まりは「対立から学ぼう」(Conflict Resolution)を翻訳紹介して以来、対立の扱い方やアサーションについて研修でも取り上げる中で、違和感や無力感があるのはなぜかという疑問が生まれたことです。事例として出された対立で、CRの手法で扱いにくい、扱っても無力感・違和感が特に高いものを「日本型コンフリクト」と名づけ、勉強会、ワークショップを積み上げて、分析を行いました。非常に興味深い発見だったことは、CRで扱えないと多くの人を感じる対立とは「伝統的・集団的価値観」と個人の価値観が対立する時であるということです。そのような対立を「日本型コンフリクト」と呼んで、今後はその扱い方を考えていきたいと思っています。そのために、では日本社会の「伝統的・集団的価値」にどのようなものがあるかを、異文化間分析の知見を援用して、日本社会を分析してみることが役に立ちます。

そこから、わたしたちの社会において、差別や抑圧につながる伝統や慣習について、共に話し合う枠組みが提案できてきたことが一歩前進であると感じています。では、どうすればいいのか、どう解決することができるのかの答えはまだありませんが、まず知ること、理解すること、分析することが力につながることでしょう。

今後も、わたしたちの学びを教育に活かしていきたいと思っています。2002 年度発行予定の「人権教育ファシリテーター・ハンドブック 発展編」は、そのような自己理解、自国文化理解を人権意識の確立にどうつなげるかについての「気づきから築き」を示せるようなものを目指しています。

来年度も、よろしくご支援ください。

事務局長 角田 尚子

<お願い> 電話・FAX 番号が、内部で変更になりました、お手数ですが
お手元のアドレス帳をご変更ください。(メール・ホームページは同じです)

TEL: 03-3800-9415 (プログラム提供部) FAX: 03-3800-9414

03-3800-9416 (テキスト普及部・一般)

「人権教育ファシリテーター養成」

11月23日・24日の2日間にわたり、2001年度第4回主催研修「人権教育ファシリテーター養成」研修を、ERIC事務所で実施しました。当日のプログラムは下表の通りです。研修の目的は下記の3点です。

1. 人権尊重を学ぶ
2. 差別・抑圧について知る
3. 差別・抑圧のある社会の変革にむけての意欲を高める

11月22日	11月23日
セッション1 人権尊重を学ぶ 1 <ul style="list-style-type: none"> □ 体で自己紹介 □ 研修参加の動機と期待 □ 話し合いのルールづくり □ 欲しいもの、必要なもの □ 権利の分類(子どもの権利条約) □ 権利のタイムラインの進め方 	セッション4 差別・抑圧について知る 2 <ul style="list-style-type: none"> □ 傾聴スキル・トレーニング: 序列化のアクティビティで気づいた・感じた・考えたことについて □ 序列化の見直し: 「公正さ」の観点から □ しがらみの糸
セッション2 人権尊重を学ぶ 2 <ul style="list-style-type: none"> □ フェイス・ミラー □ 人権と権利の連想図 □ 人権としての教育とは何か □ どのようなスキルが身につけば人権としての教育といえるか(わたし、あなた、みんなの枠組) 	セッション5 差別・抑圧のある社会の変革にむけての意欲を高める 1 <ul style="list-style-type: none"> □ マッサージはメッセージ □ じゃんけんゲーム □ アクティビティの検討 □ 発表
セッション3 差別・抑圧について知る 1 <ul style="list-style-type: none"> □ 日本社会の序列化を考える: 学生時代なんでもランキング □ あっていい／あると危険なランキング □ どこで何によって序列化を身につけたか □ 日本社会の特徴と自我形成への影響: 日本社会の○△□ 	セッション6 差別・抑圧のある社会の変革にむけての意欲を高める 2 <ul style="list-style-type: none"> □ 多数派・少数派ゲーム □ 多数派・少数派ゲームからどのような展開が可能か考える □ 体験したアクティビティの展開を考える □ ふりかえりのプログラムを考える □ プログラム発表 □ ふりかえりとまとめ: 参加者によるファシリテーター実践

「聴く姿勢」が「話す姿勢」を育てる。人権尊重は「聴く」ことから始まるのではないのでしょうか？ 人権教育を実践する者は、機会あるごとに「傾聴」のスキル・トレーニングが必要かと思えます。今回の研修でも十分な「傾聴」の時間をとりました。他者ばかりでなく、自分の中の多様性や多面的を認めることから、人権教育の可能性が広がってゆくのではないかと思えます。

人権尊重のいいパターンを継続してたくさん学び入れることで、人権尊重の文化を築いてゆけると期待しています。

主催研修の予定

<STEP 3 「築き」のための参加型手法によって社会への変化のプロセスをつくる>

1. 「M.E.E.T. ザ・ワールド 海外ボランティア養成プログラム」

国際協力やボランティアについて学ぶ。PRA(主体的地域調査)の基本的な方法について演習を学んでいきます。また NPO(組織)のあり方についても触れていく予定です。

日 程:2002年1月12日(土)~14日(月祝) 3日間 10:00 から 17:00

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

参加費:30,000円 (テキスト代を含まず)

テキスト:「12のものの見方・考え方」2,000円 「NPO 運営マニュアル」3,500円

2. 「TEST(Teachers' Effective Skills Training)教育力向上講座」

TESTとは Teachers' Effective Skills Training の略です。「参加型で伝える12のものの見方・考え方」に沿って教育現場の現状分析とカリキュラム作成を行います。また、参加型学習手法を授業に応用できるようにスキル・トレーニングも行います。

日 程:2002年3月23日(土)~25日(月) 3日間 10:00 から 17:00

場 所:ERIC 国際理解教育センター(東京都北区東田端)

参加費:30,000円 (テキスト代を含まず)

テキスト:「未来を学ぼう」4,000円 「テーマワーク」2,500円

「参加型で伝える12のものの見方・考え方」2,000円

☆各研修とも15名が定員となります。お早めにお申し込みください。

テキストは希望者のみご購入頂いています。また、関連図書のみご購入も申し受けています。

☆お申し込みは、下記のお申し込み用紙をFAX、E-mailにて、プログラム提供部(佐藤)宛にご送付下さい。

TEL 03-3800-9415(プログラム提供部) FAX: 03-3800-9414

*TEL、FAX 番号が変わりました。ご注意ください

E-mail: eric-net@try-net.or.jp 折り返し確認のご連絡をいたします。

ERIC 主催研修申し込み書

- 研修名
- お名前 (ふりがな)
- ご住所 (〒)
- 電話/FAX E-mail
- 所属
- テキストの有無 参加費振り込み予定日
1. 持参 2. 購入する 年 月 日

参加費の振込先 郵便振替 00180-5-710744 口座名称 ERIC 事務局

<ERIC へのご連絡事項>

『レッツ・コミュニケーション!』ができました!

◆角田尚子著 ◆価格 2,100円(税込み) ◆2001年 ◆注文番号 COM-20

「レッツ・コミュニケーション!」は、国際理解教育の基本であるコミュニケーションをテーマとして扱います。レッスンバンクで好評だった「わたし編」「あなた編」に、「みんな編」「スキル編」をくわえ、まとめ直しました。本書は基本的に子どもたち自身が一人で読み進めることができるように構成してあります。さまざまなことを感じ考える中学・高校生たちがこの本を読み、多くの彼らが、自らを問い、社会と対話を広め、そして世界に積極的にかかわってくれるようになることを期待しています。

<クリスマス&ニューイヤー特別割引> 2002年1月31日までに、本書を10冊以上お申し込みいただいた方々には、2割引きで提供いたします。この機会をお見逃しなく!

※先にご注文いただきお待たせした皆様には、大変遅くなりご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫言いたします。

(テキスト普及部)

主催研修報告

＜STEP2 人間関係のスキルトレーニングによって、課題解決のための基礎的な力を身につける＞

「対立から学ぼう」

2001 年度第 3 回の主催研修「対立から学ぼう」を 9 月 15 日・16 日の 2 日間 ERIC 事務所で行いました。当日のプログラムは下表の通りです。

9 月 15 日	9 月 16 日
セッション 1 米国自爆攻撃事件と自分の感情・行動 <input type="checkbox"/> 感情を体で表現 <input type="checkbox"/> 感情の色紙(コラージュ) <input type="checkbox"/> 対立の階段: 上がる行動・下る行動 <input type="checkbox"/> 各種国際条約の確認	セッション 4 解決のプロセスを進めるためのツールの体験 <input type="checkbox"/> アクティビティ体験 <input type="checkbox"/> 多数派・少数派ゲーム(全体) <input type="checkbox"/> 対立から学ぼう 10 の基礎概念の体験(グループ毎)
セッション 2 私たちの行動パターンと日本文化 <input type="checkbox"/> パワーとは何か、パワーの分析 <input type="checkbox"/> 自分が自分のパワーを行使する場面 <input type="checkbox"/> 日本社会の○△□: プラス面・危険な面 <input type="checkbox"/> 危険な面を改善する 5ヶ条づくり	セッション 5 体験アクティビティの共有 <input type="checkbox"/> 体験アクティビティの発表 <input type="checkbox"/> ふりかえり
セッション 3 対立に対する意識改革 <input type="checkbox"/> 「対立は悪くない」と思える条件の分類・連想図 <input type="checkbox"/> 内在化と激化 <input type="checkbox"/> 米国自爆攻撃事件に関する声明文を読む <input type="checkbox"/> どういう「社会的働きかけ」が可能かの 2次元軸	セッション 6 プログラムづくり <input type="checkbox"/> あいさつゲーム <input type="checkbox"/> プログラムづくり <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> 人間スカラプチャー <input type="checkbox"/> ふりかえり(傾聴)

研修の4日前の9月11日に米国同時多発自爆型攻撃事件が起きました。この事件はまさしく「対立」の一例と言えましょう。ERIC は個人の身近な対立も国際的な対立も、暴力を使わず平和的に解決してゆこという理念は同じであると考えています。ERIC の提案する対立のプロセスを扱う 10 の基本概念は、どちらの対立にも応用が可能であると考え今回研修で取り扱うこととしました。

感情は行動の源。研修は参加者自身の感情を見つめることから始まりました。その感情や行動パターンは、成長の過程で知らず知らずに身につけた所属社会の文化の影響があるのではないか、そこから日本社会の特徴を分析しました。また、対立のプロセスには、対立の階段を上げる行為と下がる行為があり、「社会的働きかけ」(アドボカシー)が下がる行為を促進することが分かりました。

2日目に実施したアクティビティは、「意見のスペクトラム」「絵の中に何が見える」「視点めがね」「多数派・少数派ゲーム」「対立のエスカレーター」「ウイン・ウイン」「要望と本心」、等々の既存のアクティビティを各グループとも改善、発展させ体験していました。(いずれのアクティビティも ERIC 出版物に掲載。)これを受けて、1.対立に対する意識改革が起こる、2.自分の持っているパターンが意識できる、3.新しいスキルのパターンが学べる、の3要素を取り入れたプログラムの作成をおこないました。